



全体会報告

G分科会 「高齢社会と少子化社会」

司会 西田真紀子（石川県建築士会）
 アシスタント 中川 優子（石川県建築士会）
 出席者 38名

分科会主旨

すでに高齢社会となった今日、全建女が長年取り組んできたバリアフリーも一般化しつつあります。しかし、手摺を付けて段差を無くするだけで良いのでしょうか？

知恵と工夫を生かして長年活動が続ける「シニアライフを楽しむ」と、少子化に着目したこれからの「子育て世代バリアフリー」の2件の報告により、女性建築士の視点を生かした意見交換を行いました。

活動報告

「シニアライフを楽しむ」

コメンテーター 春岡 須磨子（大阪府建築士会）・上田 仁美（大阪府建築士会）

活動は約20年以上に渡り、高齢社会に対応した見学やセミナーの開催を行っている。近年は市民向け講座も多く、いかに老後を安全・安心・安らぎをもって暮らせるか？に取り組んでいる。

参加者拡大のためにも「バリアフリー検定」など工夫をこらし、地域の交流や庭の活用、五感に関する「目に見えないバリアフリー」にも着目。大人気のリーフレットも数多く発行している。



「子育て世代バリアフリー」

コメンテーター 坂井 志津江（石川県建築士会）・坂上 ゆかり（石川県建築士会）

近年の少子化を鑑みるに、現代の子育てには多くのバリアがある。活動は初期で、各施設の検証を女性目線で行っている。

イベント参加にてアンケート回収、東海北陸ブロック会議でのワークショップ開催、関連商品の勉強会等、活発な取り組みを行っている。検証には「石川けんしょう君」（4歳児等身大パネル）の持参や、子供目線体験としてカート利用の座移動などを行い、子育て予備軍も積極的に参加している。



意見交換

多くの参加者は、バリアフリーに関する活動の重要性を認識している。さらに長年取り組んだテーマであるだけに、経験上の失敗談やこれからの道しるべとなる意見がたくさん聞かれた。これからのバリアフリーはハード整備から、ソフト面への理解へと移行し、人的対応の充実が望まれる。

女性ならではの視点は、介護や子育ての問題に真剣に取り組む女性建築士の永遠のテーマである。